

サケツバタケの人工栽培

福島県林業研究センター林産資源部
平成16年福島県林業研究センター業務報告
分類コード 18-16-1000000

部門名 林業—食用きのこ—栽培方法
担当者 古川成治・青砥裕輝・武井利之

I 新技術の解説

1 要旨

菌床は針葉樹バーク堆肥、広葉樹おが粉、フスマ(米ぬか)を5~10:5~0:2(容量比)で混合、加水し含水率は66%とする。容器はP.P製の袋で詰め込み培地重量は1kgである。

殺菌は高圧殺菌釜で100℃で60分間蒸らしたのち121℃で90分間行う。

培養は21℃で60日間行い、培養完了後野外に埋め込む等の操作を行う。

菌床の埋め込みはいつでも可能だが、春期発生には前年の12月までに、秋期発生には8月までに埋め込むのが良い。収量は系統により異なるが培地重量の2~5割程度が見込める。

収穫は子実体のかさが開ききる前に行うと良い。

2 期待される効果

直売所等での販売

3 適用範囲

きのこ栽培者、農林家

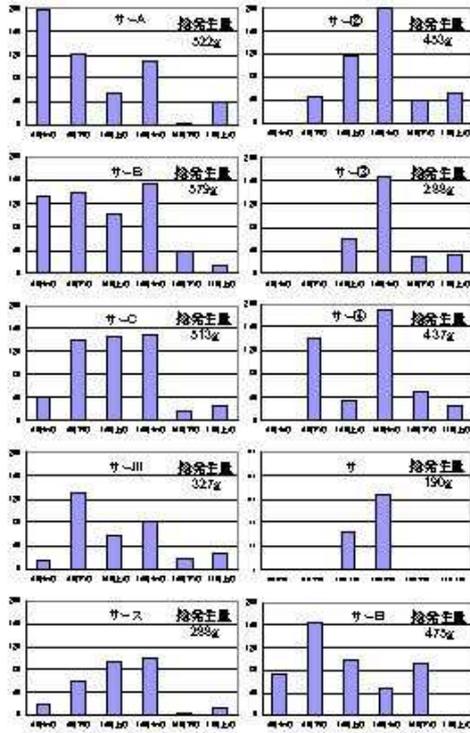
4 普及上の留意点

菌床の製造にあたっては無菌的な操作が必要であるため、きのこ振興センターに種菌を譲渡し、菌床をきのこ振興センターが製造するのが適当と考える。

被覆資材はバーク堆肥、落ち葉が使用可能であるが、風等でとばされて乾燥しないよう敷きわら等を行う。また、過乾燥になった場合は散水等が必要である。

野外で栽培する場合は泥はね等に注意する必要がある。

II 具体的データ等



パーク堆肥埋め込みによる箱栽培



野外埋め込みによる栽培

図-1 系統別発量比較
(系統別発量の推移)
グラフは1畝当たり発量を示しています。

III その他

1 執筆者

古川成治

2 主な参考文献・資料

福島くさびら第24号